The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	日本語の「そして」とスペイン語の‘y’をめぐって
Author(s)	中田, 一志
Citation	日本語・日本文化. 2023, 50, p. 1-36
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91263
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

〈研究論文〉

日本語の「そして」とスペイン語の ‘y’ をめぐって

中田　一志

はじめに

本稿の目的は次の通りである。スペイン語の接続詞 ‘y’ の用法を分類、整理しなおし、日本語の接続詞「そして」の用法と対照しやすい形にしておく。次に、日本人母語話者の「そして」の使用規範を明らかにする。そして、スペイン語母語の日本語学習者の「そして」の使用を分析し、指導改善案を提案する。最後に、なぜ日本語学習者にとって「そして」の使用が難しいのか、どのようにして日本語教育で導入するのがよいか、提案する。また、日本語の「そして」とスペイン語の ‘y’ が対応する時、あるいは対応しない時の条件を明らかにする。

1. スペイン語の ‘y’ の分類と整理

上田（2011）の『スペイン語文法ハンドブック』では ‘y’ の意味として、(A)「～と～」「そして・また～」（例えば、revistas *y* periódicos: 雑誌と新聞 ; Se sentó *y* se puso a leer: 彼はすわって読み始めました。)、(B)〈反意〉「～だけれども」「しかし」「だが」（例えば、Está lloviendo *y* quiere ir a nadar a la playa. Debe de estar loco, ¿eh?: 雨が降っているのに海岸に泳ぎに行きたいだなんて。彼は頭がおかしいんじゃないの？)、(C)《命令文＋ y》「そうすれば～」（例えば、Súbete en la silla, *y* alcanzarás: 椅子に乗って、そうすれば届くよ)、(D)《同じ語を結んで》〈反復〉〈継続〉「次々に」「どんどん」（例えば、Pasaron días *y* días: 日がどんどん過ぎていきました)、といった記述がなされている。

これらは基本的に単語と単語を結合、あるいは句や節と句や節を結合するといういわゆる等位接続[1] を基本とした意味記述となっている。それぞれの意味の

違いは、結合される要素の意味関係の違いとして見ることができる。(A) は並列的な順接的関係、あるいは時間的な継起的関係によって結ばれ、(B) は並列的だが逆接的関係によって結ばれ、(C) は因果関係（あるいは条件的関係）によって結ばれ、(D) は並列的関係と継起的関係の両者から反復や継続の意味が生まれると考えられる。ここで翻って日本語の「そして」が使用できるかを考えてみると、(A) は「雑誌、そして新聞」や「彼はすわった。そして読み始めた。」のように使用可能、(B) については「雨が降っている」ことと「海に泳ぎに行きたい」ことを順接で接続はできない。(C) では「椅子に乗れば届くよ」のような条件的な関係のときは「そして」が使えないが、「太郎が石につまづいた。そしてバタンと倒れた」のような継起的・因果関係を表す時は可能である。また、(D) では「そして」が使用できず、相対的に日本語の方が制約があることがわかる。以上をまとめると、次のようになる。

(1) スペイン語の ‘y’ の意味記述

	言語単位	並列的／継起的・因果関係	順接的／逆接的	「そして」
A	語、句や節	並列的／継起的	順接的	可
B	句や節	並列的	逆接的	否
C	句や節	継起的・因果		可／否
D	語	並列的／継起的		否

さらに、日常的な文脈での使用を観察すると、スペイン語の ‘y’ の使用範囲が広いことが確認できる。ここで福嶌（2012）『気持ちが伝わる！スペイン語リアルフレーズ BOOK』(Frases Vivas del Español Actual) から例文を拾ってみると、いわゆる等位接続の関係ではないものも見られる。「結合」と言うと同じ単位同士を結びつけるものを想起するので、ここからは「添加」という結びつけ方で分類することにする。

そこにはもちろん（語に）語を添加する文例、（句や節に）句や節の添加する文例は多く見られる。(2) は語が並列的添加された文例である。

（2）語の添加（並列的）

a. A: En mi cumpleaños quiero una bici *y* una muñeca *y* un videojuego *y*…（お誕生日にほしいのは自転車とお人形とテレビゲームと…。）B: ¡Basta ya, hija!（おいおい、いいかげんにしろ！）[102][2)]

b. A: Señor Pérez, cuando usted quiera.（ペレスさん、ではよろしくお願いします。）B: Muchas gracias. Señoras *y* señores, buenos días.（皆さま、おはようございます。）[329]

c. A: ¿Tú crees que eso es justo?（あなたは、それが正しいと思う？）B: *Sí y no*. Deja que me explique.（正しくもあり、そうでもないね。まあ聞いてよ。）[164]

次に、（3）は並列的な関係の句や節が添加された文例で、（4）は継起的・因果的な関係の句や節が文例として認めることができる。

（3）句や節の添加（並列的）

a. A: Adiós, mamá. Voy al centro con mis amigos.（お母さん、じゃあね。みんなで街に遊びに行くんだ。）B: Ten cuidado *y* regresa temprano.[317]（気をつけて早く帰りなさい。）

（4）句や節の添加（継起的、因果的）

a. A: Por eso leí su blog y descubrí que…（で、私、彼のブログを読んだの。そしたら知ってしまったの…。）B: ¿Qué descubriste? Sigue, sigue.（何が分かったの？話を続けて。）[40]

b. A: Te veo muy pálido. ¿Qué te pasa?（顔色が悪いよ。どうしたの？）B: Es que anoche empiné el codo, *y* me siento mal.[295]（ゆうべ飲みすぎて、気分が悪いんだ。）

c. A: Por favor, ¿cómo se va a la Plaza Mayor?（すみません。中央広場にはどう行けばいいですか？）B: Siga todo recto *y* luego gire la segunda a la derecha.[37]（まっすぐ行って、二つ目の角を右に曲がってください。）

d. A: Una de dos, o te pones a dieta o comes ahora *y* después te arrepientes.（ダイ

エットするか、今食べてあとで泣くか、2 つに 1 つだよ。）B: ¡Ninguna de las dos!（どっちもいや！）[166]

さらに、スペイン語の ‘y’ は相手の発話に対して、それと同じ単位相当の自らの発話を添加することができる。そのとき ‘y’ が文頭に現れる。(5) は相手の発話に対して対称的な返事を返すときに使われる ‘y’ の文例である。このとき日本語の対訳ではとりたて助詞「も」が現れる。

(5) 相手の発話に対して対称的な自らの発話を添加

a. A: Te quiero, Bárbara.（愛してるよ、バルバラ）B: *Y* yo a ti. Andrés.（私もよ、アンドレス。）[237]

b. A: ¡Eres un sol!（あなたって、すてきね！）B: *Y* tú un encanto.（君も最高だよ。）[244]

c. A: Te echo de menos. Y lo digo sinceramente.（会えなくて寂しいわ。心の底からそう思ってるのよ。）B: *Y* yo a ti, querida.（僕もだよ。）[249]

d. A: Estoy hasta las narices de ti, Carmen.（カルメン、もう君にはうんざりだ。）B: *Y* yo de ti, José.（私もあなたにうんざりなんだけど、ホセ。）[252]

相手の発話に対して 自らの発話が非対称的で、相手の発話と対照的な返事を返す時にも使われる。このとき日本語の対訳では対照を表すとりたて助詞「は」が現れる。

(6) 相手の発話に対して非対称的な自らの発話を添加

a. A: ¡Viva! ¡He sacado un diez!（ばんざーい！ 10 点満点をとったよ！）B: *Y* yo un cinco. Esto no es justo.（ぼくは 5 点だ。こんなのってないよ。）[86]

b. A: Yo voy a quedarme con la casa del abuelo.（私はお祖父様のおうちをもらおうっと。）B: *Y* yo con su olivar. Y colorín colorado.（ぼくはオリーブ園をもらおう。これでめでたしめでたしだね。）[352]

ここまでは、‘y’によってその前の言語単位と同じ言語単位を添加するものであった。しかし、ここから見る文例は、‘y’が直前の発話や応答に対して補足的に添加するようなものである。したがって、‘y’で添加された内容を省略したとしても話し手の主張は維持される。

まず、（7）は話し手自らの発言を強調するために補足的に話し手の態度を添加した文例である。（7a）では自らの発言に対してもっともらしい根拠を付け加えるときの常套句、（7b）（7c）はそれ以上付け加える必要がないことを強調する常套句、（7d）は自らの発言を強調する常套句が補足されている。

（7）自らの発言に対して補足的に態度を添加（強調）

a. A: Paula está muy contenta, *y no es para menos*, porque…（パウラはとってもご機嫌だよ。それもそのはず、彼女は …。）B: ¿Porqué le ha tocado la lotería?（宝くじに当たったの？）[81]

b. A: ¡Ay, qué nervios! ¿Qué hago en la entrevista?（ああ、緊張する！面接ではどうすればいいかな。）B: Pues pórtate como siempre, *y ya está*.（いつものとおりにしていれば、それでいいよ。）[165]

c. A: ¿No me da usted otra oportunidad?（もうチャンスはもらえないんですか？）B: No. Estás despedido, *y punto*.（だめ。あなたはクビ。以上よ。）[153]

d. A: Te echo de menos. *Y lo digo sinceramente*.（会えなくて寂しいわ。心の中でそう思っているのよ。）B: Y yo a ti, querida.（ぼくもだよ。）（21）[249]

次の（8）は話し手の応答が妥当性を高めるために補足的に説明を添加した文例である。（8a）は自らの応答に対して皮肉をこめて補足的に説明、（8b）は自らの否定的な応答に対して当然であることを補足的に説明している。

（8）自らの応答に対して補足的に説明を添加

a. A: Ya hemos terminado el trabajo.（もう仕事は片付いたよ。）B: ¿Ya? *¡Y pensar que para eso he venido!*（もう？そのためにわざわざ来たのに！）[137]

b. A: Te estoy molestando. Lo reconozco.（あなたに迷惑かけてるよね。自分でもわかってるの。）B: No digas eso. No es verdad, *y tú lo sabes*. [149]（とんでもない。そんなことないよ。分かってるだろ）

さらに、‘y’ を文頭につけた疑問文の形で相手の発言に対して補足的に説明を要求したり、相手の発言の発話意図についての説明を要求したりすることができる。

まずは、(9) は直前の相手の発言に対してさらに説明を添加するように要求するときに使われる ‘y’ の文例である。先行する相手の発言に対して、「それでどうなったか」を補うように要求する文脈で使われる。

(9) 相手の発言に対して説明を補足するよう要求

a. A: ¿*Y* cuándo va a venir tu amigo ese?（君の友だちとやらはいつ来るの？）B: ¡Quién sabe! No me preguntes.（知らないよ！私に聞かないで。）[47]

b. A: ¿*Y* qué pasó después? Cuéntame, cuéntame.（それから どうなったの？話して、話して。）B: Pues nada. Nos despedimos y no nos hemos vuelto a ver.（別に。そこで分かれて、それっきり。）[41]

c. A: Carlos se me ha declarado.（カルロスに告白されちゃった。）B: ¡Anda! ¿*Y* qué le has contestado?（そうなんだ。で、何て返事したの？）[251]

次は、相手の発言に対してその発話意図を補足するよう要求するときに使われる‘y’の文例である。日本語の「それで？」にあたるような文脈で使われる[3)]。

(10) 相手の発言に対して発話意図を補足するよう要求

a. A: ¿Sabes? ¡Ayer ganó mi equipo favorito!（知ってる？ぼくの好きなチームが昨日勝ったんだ！）B: ¿*Y*?（それで？）[4]

b. A: Hoy se celebra un congreso internacional en Madrid.（今日、マドリードで国際会議があるんだ。）B: ¿*Y* a mí qué?（私に何の関係が？）[67]

これまでをまとめると、スペイン語の‘y’には（11）のような用法があるということが言える。また、日本語の「そして」が使用できる概ねの範囲も（1）の結果と合わせてると記しておく。

（11）スペイン語の‘y’の用法の分類

添加元	添加	関係性	「そして」
語	語	並列的	可
句や節	句や節	並列的	可
		継起的／因果的	可／否
相手の発言	自らの発言	対称的	否
		非対称的	否
自らの発言	態度（強調）	補足的	否
	説明	補足的	否
相手の発言	説明要求	補足的	否
	発話意図要求	補足的	否

2. 日本語の「そして」の記述と先行研究

ここではスペイン語の辞書およびスペイン語母語話者向けの日本語教科書などで日本語の「そして」がどのように記述されているか、そして日本語の研究でどのように記述されているかを確認する。

宮城・山田他（2000）『和西辞典』（改訂版）*Diccionario Japonés-Español*（*Edición Revisada*）白水社では「そして」の意味は‘y’とし、「兄は作家、そして弟は画家である。」（El hermano mayor es escritor *y* el menor es pintor.）「父は 3 月、そして母は 5 月に死んだ。」（Mi padre murió en marzo, *y* mi madre en mayo.）の例が挙げられている。すなわち、句や節が並列的あるいは継起的に添加するという代表的な例が挙げられている。

日本語教科書の一つ、スリーエーネットワーク（1999）『みんなの日本語初級

I　翻訳・文法解説スペイン語版』においても「そして」は文を接続するのに使用されるとし‘y’（se emplea para conectar oraciones）（文を接続するのに使用される）をその意味にあてている。

次に、接続詞「そして」の先行研究を見てみる。市川（1978）や佐久間（1990）は「そして」を「添加型」に分類している[4)]。他に、日本語記述文法研究会（2009）はそれを「加算的関係を表示する接続表現」のなかの「添加」に分類している[5)]。よって、本稿も基本的に「そして」に「添加」の機能があるとする。

また、「そして」の「添加」の仕方について、前の文に対して「つけ加え」あるいは「継起」（以上、日本語記述文法研究会）するとしたり、「添加」によって結合された要素は「並列的」関係、「時間的」あるいは「因果的」関係があるといった記述が見られる。前者は「そして」に続く文がその前の文に対してどう作用するかに焦点がある記述であり、後者は「そして」の前の文とそれに続く文の関係を記述したものであり、結局は同じことを言っているので、用語を整理して、本稿ではそれぞれ「並列的」および「継起的／因果的」という用語を使用することにする。

また、「そして」は書き言葉で使用される傾向にある。石黒他（2009）は接続表現のさまざまな種類別の使用回数を数え、「そして」は「論文」「エッセイ」「小説」「講義」でよく使用される接続詞であると指摘している。

また、「そして」は、「決定的な事態」「ある一連の事態を、類似性、因果関係、時間という軸に沿って並べていった結果たどり着く、それ以上進めない到達点」で使用される（石黒 2000: 38）という指摘、それに類似した Suvanakoot（2019）のストーリーの「主な出来事」、特に「意外な展開」や「結末」に導く箇所 で使用されるといった指摘がある。こういった談話の中での使用は本稿の分析でも重要な点である。

また、日本語学習者の「そして」の使用に関しては、誤用が多く、過剰使用が見られるという指摘が多いことも注目に値する点である。（石黒 2000、阪上 2014、Suvanakoot 2021 など）

以上をまとめると次のようになる。

（12）「そして」の特徴

a.「添加」型の接続詞である。

b. 前後の要素の「並列的」および「継起的／因果的」関係を表す。

c. 書き言葉的である。

d. 談話では「意外な展開」や「結末」に導く。

e. 日本語学習者にとって使用が難しい。

3. 分析の概要

ここでは、日本語の「そして」の使用について分析する対象、およびその方法について概要を述べる。

手順としては、日本語母語話者（以下、断りのない限り「母語話者」と略す。）の「そして」の使用、特に談話での使用規範を明らかにする。そして、スペイン語を母語とする日本語学習者（以下、断りのない限り「学習者」と略す。）の「そして」の使用を観察し、不自然に感じる使用に関して、母語話者の規範からどう逸脱しているかという観点で考察する。そして、どう改善すれば良いか、指導案を提案する。

使用する資料は、同一課題において母語話者と学習者の資料が揃っている I-JAS（多言語母語の日本語学習者横断コーパス : International Corpus of Japanese as a Second Language）[6] を使用する。このコーパスは（13）の調査、タスクからなり、その中のストーリーライティング 1 という課題を分析対象とする。その理由は、「そして」が書き言葉的であるという特徴を持つため、作文データが適していると考え、かつ、調査者によってある程度コントロールされた対面調査の方がよかろうと判断したからである。

（13）I-JAS の調査、タスク

対面調査	発話データ	ストーリーテリング 1、2
		対話
		ロールプレイ 1、2
		絵描写
	作文データ	**ストーリーライティング 1**、2
非対面調査		メール 1、2、3
		エッセイ

ストーリーライティングのタスクは、対面調査の最後に行なわれ、最初に行ったストーリーテリングと同じ絵を用い、PC で入力するといったもので、制限時間は 1 タスクにつきおよそ 10 分、辞書やインターネットの使用は不可ということである。

ストーリーライティング 1「ピクニック」は絵 1 の 5 枚の絵からなっている。そして、「朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。」という書き出しが前もって与えられ、内容はおおよそ（14）のような内容のものである。

絵1

（14）「ピクニック」

（朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。）二人がサンドイッチをバスケットに詰めているのを犬が見ていました。どこに行こうかと地図を見ている間に、犬がバスケットに入り込んでしまいました。二人はピク

ニックに出かけました。お昼になり、食事をしようとバスケットを開けると、犬が飛び出してきました。中をのぞくと、食べ物は食べられていて、なにも残っていませんでした。二人はがっかりしました。

このタスクで「そして」を使用した母語話者の総数は 10 人（／ 50 人）、学習者の総数は 8 人（／ 50 人）で、それぞれの絵の語りで「そして」を使用した人数は（15）の通りである。「そして」を使用したすべての母語話者はいずれかの絵で一度使用した計算になり、学習者の方は 1 人が二度（絵［1］と絵［4］）「そして」を使用し、他の 7 人は母語話者と同様にいずれかの絵で一度使用した。一般的に日本語学習者には過剰使用の傾向が見られるが、スペイン語母語の学習者に関しては、使用回数および使用箇所で母語話者とそう目立った差異がないように思われる[7)]。

（15）「そして」の使用位置と使用者数

使用位置	母語話者	学習者
絵［1］	2	1
絵［2］	2	1
絵［3］	1	3
絵［4］	3	3
絵［5］	2	1

また、Suvanakoot（2021）はタイ語を母語とする日本語学習者には「そして」の誤用、多用が見られることを指摘し、その原因の一つにタイ語に対応する形式がフィラーとして使用できること、日本語の「それから」「でも」「すると」「だから」といった他の接続詞にも対応することを指摘している。スペイン語を母語とする学習者にも同じような要因による誤用がないか確認するために、学習者のストーリーライティングに現れる「そして」の位置を空所にし、それ以外のストーリーをスペイン語訳し、スペイン母語話者に空所に適切な接続詞を補充させる調査を行なった。その結果、補充される接続詞は、*y*, *entonces*, *y entonces*, *luego*

であり、それぞれ「そして」「それから」「そしてその時」「その後」などの添加型や継起的関係を表す接続詞に対応するものであることを筆者は確認した[8)]。このことから、学習者の使用した「そして」が不自然に感じられ場合は、母語話者との談話構成の仕方に差異があることが予想される。

4. 日本語母語話者の「そして」の使用分析

母語話者の「そして」の使用を分析し、その使用規範を明らかにする。それを使って学習者の使用を分析するためには、両者を分析するための共通のモデルを設定しなければならない。その参考にするのが、Suvanakoot（2019）でストーリーテリングの分析でとられたモデルである。そこではそれぞれの絵ごとに「主な出来事」と（もしあれば）「周辺的な出来事」を区別することによって、「そして」は「主な出来事」を繋ぎ、談話の構成では特に「意外な展開」や「結末」で使用されることを明らかにしている。

（16）Suvanakoot（2019）のモデル

使用位置	構成	ケンとマリ	犬	食べ物
絵［1］	導入	**サンドイッチを作る**	食べ物を見る	－
絵［2］	継起する出来事	地図を見る	**バスケットに入る**	－
絵［3］	時間／空間的な展開	**出かける**	－	－
絵［4］	意外な展開	バスケットを開ける	**飛び出る**	－
絵［5］	結末	バスケットを覗く	－	**食べられている**

（16）のモデルではボールド体は「主な出来事」を表し、プレーン体は「周辺的な出来事」を表している。このモデルの特徴は「主な出来事」が固定されているところ、「ケンとマリ」「犬」「食べ物」といった三者において分けられているところである。ここで「主な出来事」を固定した方が都合がよいかどうか議論し

たいと思う。例えば、絵［1］において「二人がサンドイッチを作りました。それを犬が見ていました。」であれば主な出来事は二人の行為だと肯けるのであるが、「ケンとマリがサンドイッチを作るのを犬が見ていました。」といった語りであれば犬の行為の方が主な出来事のように思われる。同様に絵［2］においても「二人が地図を見ている間に犬がバスケットに入りました。」であれば主な出来事は犬の行為だと認められるが、「犬がバスケットに入ったのに気づかずに二人は地図を見ていました。」といった語りであれば二人の行為の方が主な出来事のように思われる。

そこで、基本的に主節で描かれた出来事に対して語り手の視点が置かれているとし、語り手がどちらの視点をとるかという点に目を向けることにする。それによって、よりダイナミックな分析が可能になると考える。また、視点という概念を用いると、「食べ物」に視点があるのは不自然であるから、「ケンとマリ」「犬」の二者についてのモデルを考える。

以上のことを踏まえ、分析のための基本モデルを次のように構築する。できるだけ多くの語りに適用できるように事態を単純化している。

（17）単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
[0] サンドイッチを作った；	
[1] サンドイッチをバスケットに入れた	[1]’ 遠くでその様子を見た
[2] 地図を見た	[2]’ バスケットの中に入った
[3] ピクニックに出かけた	−
[4] バスケットを開けた、驚いた	[4]’ バスケットから飛び出した
[5] がっかりした	[5]’ サンドイッチをすべて食べた

すでに述べたように、「主な出来事」と「周辺的な出来事」を固定せずに、原則的に主節事態と従属節事態を区別し、主節事態に語り手の視点があると考える。また、視点に影響を与えるような構文の場合はそれも考慮する。

久野（1978）は早くから談話文法に着目し、次のような視点に影響を与えるよ

うな構文を指摘した。（18）の視点制約により（19a）の文法性、（19b）の非文法性が説明できる。（ただし「ここ」は地図の場所を指差している状況ではなく、発話時に話し手の存在場所を指す。）

（18）「来る」「行く」の視点制約：話し手が動く主体でない場合、

- 「来る」発話の時点、或いは動きの動作の起きる（起きた）時点にいる（いた）（動きの主体以外の）人に話し手の視点が接近している時用いられる。E（到着点側の人）＞E（動きの主体、出発点側の人）
- 「行く」そのほかの場合に用いられる。E（動きの主体、出発点側の人）≧E（到着点側の人）

（19）a. 太郎が昨日、ここに来た。
　　b. * 太郎が昨日、ここに行った。

他に、久野（1978）は受身文のカメラ・アングルを指摘している。

（20）受身文のカメラ・アングル
　　受身文のカメラ・アングルは、新しい主語の指示対象寄りである。

（21）はすべて受身文であるから新主語寄りの視点をとる。（21b）では、受身文がとる視点は、John’s wife ＞ John であるが、John’s wife という John を中心とした Mary の指示の仕方はこの視点と矛盾している。よってこの表現は非文法的になると説明する。

（21）a. Then, Mary was hit by John.
　　b. ??Then, John’s wife was hit by him.
　　c. Then, Mary was hit by her husband.

本稿でも、このように動きの主体以外の人に話し手の視点が接近している時は、主節事態以外にも語り手の視点が接近していると考えることにする。

以上、基本モデルを設定し、語り手の視点についての考えが整ったところで、母語話者の語りを分析していく。

絵［1］で「そして」を使用したのは非調査者 JJJ24 と JJJ29 である。ボールド体で主節事態を明示する。

JJJ24

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）そしてピクニックのランチにするため、**そのサンドイッチをバスケットに入れました。**ケンとマリは地図を見て計画を立てていましたが、二人の見ていない間に、**子犬がバスケットに入りこんでしまいました。**それに気付かない**ケン達は**そのままのバスケットを持って**ピクニックに出かけます。**お昼になってバスケットを開けると、驚いたことに、そこから**子犬が飛び出してきました。**ケンたちの**サンドイッチは**全てバスケットにいた**子犬に食べられてしまっていました。**

JJJ29

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）そして**サンドイッチをバスケットの中に入れました。**ケンとマリがピクニックに行く場所を地図を見て確認している間に、飼っている**犬がバスケットの中に入ってしまいました。**ケンとマリは仲良くピクニックに出かけました。到着し、バスケットを開けたところ**犬が飛び出してきました。ケンとマリはびっくりしました。**

基本モデルに語り手の視点が置かれた事態をボールド体で、視点が置かれなかった事態をプレーン体で、語られなかった事態を見せ消しで明示する。すると、この二例は（22）のように表示される。それを見ると、興味深いことに、「そして」の添加によって結合した [0][1] にかけて、「ケン（とマリ）」の行為に「視点の一貫性」が見られ、かつその行為は「継起的関係」であることが浮かび上がってくる。

（22）JJJ24 と JJJ29 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
[0] サンドイッチを作った；	
[1] そして、サンドイッチをバスケットに入れた	~~[1]' 遠くでその様子を見た~~
[2] 地図を見た	**[2]' バスケットの中に入った**
後略	

一方、絵［2］で「そして」を使用した非調査者 JJJ20 と JJJ51 はともに「犬」の方に視点を置いている。

JJJ20

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）サンドイッチを作っている途中、遠くから**犬がその様子を見ていました。**そして、2 人が地図を見ている間に、**犬がバスケットの中に入ってしまいました。2 人は**犬がバスケットに入っているのに気付かないまま、**ピクニックに出かけました。**作ったサンドイッチを食べようとバスケットを開けると、**中から犬が飛び出しました。2 人は驚きました。**作ったサンドイッチやデザートのりんごは犬に食べられてしまっていて、**2 人はがっかりしました。**

JJJ51

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）その様子を**犬が後ろで見ていました。**そして、二人がハイキングの行き先を地図で確認している隙に、**犬はサンドイッチの入ったバスケットの中に忍び込みました。ケンとマリは**それに気付かず**ハイキングを楽しんでいました。**お昼を食べようとバスケットのフタを開けると、**犬が飛び出してきました。**中身を確認するとせっかく作った**サンドイッチが全て犬に食べられた状態でした。**

単純化モデルは（23）の通りである。ここでも興味深いことに、「そして」の添加によって結合した [1]'[2]' にかけて語り手の「視点の一貫性」および事態の「継起的関係」が保証されている。

（23）JJJ20 と JJJ51 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
[0] サンドイッチを作った；	
~~[1] サンドイッチをバスケットに入れた~~	**[1]' 遠くでその様子を見た**
[2] 地図を見た	**[2]' そして、バスケットの中に入った**
[3] ピクニックに出かけた	
後略	

「そして」の使用に、語り手の「視点の一貫性」と事態の「継起的関係」が必要であることは、つぎのような文脈で「視点の一貫性」を無視すると、不自然になることからも再確認できる。

（24）視点の一貫性を無視

a. **ケンとマリはサンドイッチを作りました。**?そして、彼らがサンドイッチをバスケットに入れるのを**犬が見ました。**

b. **ケンとマリはサンドイッチを作りました。犬はそれを見ていました。**
?そして、犬がバスケットの中に入ったのに気付かずに、**二人は地図を見ていました。**

絵［3］での「そして」の使用は、非調査者 JJJ03 の 1 例のみである。

JJJ03

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）ケンとマリが地図で行き先を確認している間に、**犬が**サンドイッチが入った**バスケットの中に入ってしまいました。**そして、**ケンとマリは、**犬がバスケットに紛れ込んでいると知らずに**ピクニックに出かけました。**目的地に到着し、お昼ご飯を食べるためにバスケットを開けると、**犬が飛び出しして（飛び出して）きました。**犬にサンドイッチを食べられていて、**ケンとマリは昼食を食べることが出来ませんでした。**

単純化モデルは（25）の通りである。「犬がバスケットから飛び出してきました」という語りでは「来る」の視点制約によって、「ケン（とマリ）」側にも語り手の視点が置かれていることに注意を払われたい。

（25）JJJ03 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
[0] サンドイッチを作った；	
~~[1] サンドイッチをバスケットに入れた~~	~~[1]’ 遠くでその様子を見た~~
[2] 地図を見た	**[2]’ バスケットの中に入った**
[3] そして、ピクニックに出かけた	–
[4] バスケットを開けた、驚いた	**[4]’ バスケットから飛び出した**
[5] がっかりした	[5]’ サンドイッチをすべて食べた

ここでは、「そして」の添加によって結合された [2]’[3] にかけては、事態の「継起的関係」はあるが、語り手による「視点の一貫性」がとられていない。では、この語りはどのようにして保証されるか。さらに後続に注目すると、[3][4][5] にかけて語り手の「視点の一貫性」が保証されている。さらにこのことによって [3][4][4]’[5][5]’ にかけて一つの「場面」を構成しているとの解釈ができる。となると、「そして」の添加は、[2]’[3] のみを結合しているのではなく、[2]’ までと [3] 以降の新しい人まとまりの場面を結合していると考えられる。すなわち [3] の「そして」の添加によって場面転換が明示されている。このことは我々の言語直観にも合致している。このタイプの「そして」を「場面転換」の「そして」と呼ぶことにする[9)]。

絵［4］での「そして」の使用は 3 例で、非調査者 JJJ07、JJJ16、JJJ28 による語りである。それぞれの語りは以下の通りである。

JJJ07

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）けんとまりが地図を見てどこに行こうかと話している隙に**子犬がバスケットの中に入り込んでしまいました。けんとまりは**それに気づかず**ピクニックへ出かけました。**そしてお昼の時間になりご飯を食べようとするとバスケットから**子犬が飛び出してきました。**バスケットの中を見てみると**ご飯は子犬に全て食べられてしまっていました。二人はとても驚き困ってしまいました。**

JJJ16

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）2 人が作っているところを飼っている**犬がじーっと見ていました。**その後、**ケン達は**どこにピクニックに行こうかと**地図を見て考えていました。**その隙に**犬が**テーブルの上のサンドイッチが入っている**バスケットの中にするりと入ってしまいました。2 人は**それに気付かずバスケットを持って**ピクニックに出かけました。**そして、お昼になりサンドイッチを食べようとバスケットを開けると、なんと飼っている**犬が飛び出してきました。**2 人はびっくりして中を見たところ、**サンドイッチが全部なくなっていました！**

JJJ28

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）サンドイッチを作った後に、どこに行こうか**地図を見ていました。**その間に**飼い犬がバスケットの中に入りました。ケンとマリは**犬がバスケットの中に入ったことに気づかないまま、**ピクニックに出かけました。**そして野原でサンドイッチを食べようとしてバスケットを開けたところ、犬が出てきて**びっくりしました。**サンドイッチも犬に食べられていて、**ショックを受けてしまいました。**

JJJ07 と JJJ16 はほぼ同じような視点で語られているので、JJJ07 のみを分析する。単純化モデルは（26）の通りである。

（26）JJJ07 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[3] ピクニックに出かけた	–
[4] バスケットを開けた、驚いた	**[4]’ そして、バスケットから飛び出した**
[5] がっかりした	**[5]’ サンドイッチをすべて食べた**

「そして」が添加する主節事態「子犬が飛び出してきました」は、「犬」だけでなく、視点制約の「来る」によって「ケン（とマリ）」側にも語り手の視点があるとする。さらに主節事態「（二人の）ご飯はご犬に全て食べられてしまっていました」は、「犬」だけでなく、受身文のカメラ・アングルによって「ケン（とマリ）」側にも語り手の視点があるとする。そう考えると、[4]’[5]’ にかけて、同時に [4][5] にかけて語り手の「視点の一貫性」が保証されていることにより一場面を構成し、[4][4]’[5][5]’ にかけて一まとまりとしての場面解釈があり、[3][4]’ にかけて場面転換の解釈が生じたとみなされる。

JJJ28 の語りは（27）のように「そして」の添加の後「ケン（とマリ）」に視点が一方に寄っているところが他の2例と異なるが、もちろんそれに問題はない。

（27）JJJ28 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[3] ピクニックに出かけた	–
[4] そして、バスケットを開けた、驚いた	[4]’ バスケットから飛び出した
[5] がっかりした	[5]’ サンドイッチをすべて食べた

[4][5] にかけて語り手の「視点の一貫性」があり、それにより [4][5] にかけて場面構成、[4][4]’[5][5]’ にかけて一まとまりとしての場面解釈があり、[3][4] にかけて「そして」による場面転換の解釈が生じたとみなせる。

最後に、絵［5］での「そして」の使用は 2 例あり、JJJ06 と JJJ09 による語りである。それぞれの語りは以下の通りである。

JJJ06

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）ピクニックに行くためです。サンドイッチとリンゴをひとつバスケットに入れ、**2 人は地図で行き先の確認をしていました。**そのときペットの犬がバスケットに忍び込んだことに**気付きませんでした。2 人は目的地につきました。**朝に作ったサンドイッチを食べようとバスケットを開くと、**中から犬が飛び出してきたのです。2 人はとても驚きました。**そして犬はバスケットの中のサンドイッチとリンゴを食べてしまっていたので、**ピクニックは台無しになってしまいました。**

JJJ09

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）**家の中には犬もいます。**ケンとマリがピクニックの場所を地図で相談している間に**犬がサンドイッチの入ったバスケットをあさり始めました。**行く場所も決定し歩きだす二人。目的地に着いて「さあ食べよう」とバスケットを開けるとそこからは**犬が・・・驚く二人。**そしてバスケットには無残に食い散らかされた**サンドイッチや果物がありました。二人ともがっかりした様子です。**

これらの語りは、いずれも「そして」による添加の後は、基本的に「ケン（とマリ）」側に語りの視点がある。JJJ06 の「ピクニックは台無しになってしまいました」は「ケン（とマリ）」側に視点があり、JJJ 09 の「バスケットには無残に食い散らかされたサンドイッチや果物がありました」は「サンドイッチや果物はすべて食べられていた」ことであり、犬側の視点だけでなく「ケン（とマリ）」側の視点をとる。（28）は JJJ06 の語りを単純化したモデルである

（28）JJJ06 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[4] バスケットを開けた、驚いた	**[4]’ バスケットから飛び出した**
[5] そして、がっかりした	[5]’ サンドイッチをすべて食べた

「そして」の添加によって結合させられた [4][5] には語り手の「視点の一貫性」および事態の「継起的関係」があり、同時に、[5][5]’ が語りの構成上「結末」であるので「最終場面」としての解釈がなされると考えられる。

以上、母語話者の「そして」の語りでの使用を分析することを通して、語り手の「視点の一貫性」と事態の「継起的関係」によって添加される「そして」と、語り手の「視点の一貫性」によって一つの場面が構成され、一まとまりとしての場面解釈が生じさせる「場面転換」を表す「そして」の存在を明らかにした。

5. スペイン語母語の日本語学習者の使用分析および指導案

日本語母語話者の「そして」の使用規範をもとに、スペイン語を母語とする日本語学習者による使用の適否をここで議論する。すでに述べたように、50 人中 8 人の学習者が 9 つの「そして」を使用している。

その 9 つの使用を、語り手の「視点の一貫性」と事態の「継起的関係」によって、添加される「そして」が適切か否か、「場面転換」を表す「そして」が適切か否かによって分けて議論する。

まず、語り手の「視点の一貫性」と事態の「継起的関係」によって添加される「そして」に関する文例から見る。これに関わるものは、SES47（47, 初級）[10]、SES15（52, 初級）、SES01（52, 初級）による 3 つの「そして」である。その中で「そして」の使用が適当だと思われるものは次の 1 例である。

SES15（52, 初級）

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）朝、ケンとマリは公園に食事しにい行きたいでした。一緒に、**食べ物を作りました。**「マリ、公園はど

こか」**ケンは聞きました**。「地図はつくえの上にあります。」**マリは答えました**。地図を見た間に**犬が**食べ物を見て、**食べ物のバスケットに入りました**。公園に**ケンは言いました**。「あ———。このバスケットはとてもおもい。」**マリはいいました**。「たくさん食べ物を作った。いい。ここにとまれる」**バスケット動いてはじめました**。そして**犬は早くでました**。**ケンはびっくりしました**。「あああーー。犬か。**食べ物を食べた**。**たいへんだな**。。。」

初級学習者らしく短文の連続で語られ、対話を組み合わせて物語を展開している。その結果、母語話者には語られないような細かい描写が見られる。「そして」が添加される箇所もそうである。必要に応じて日本語を修正すると、「バスケットが動き始めました」に「（犬が）バスケットから早く出ました」が「そして」によって添加されている。モデルを変則的に調整すると、次の（29）のようになる。

（29）SES15 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[3] ピクニックに出かけた	**[4]” バスケットから飛び出した**
[4] バスケットを開けた、驚いた	**[4]’ そして、バスケットから飛び出した**
[5] がっかりした	**[5]’ サンドイッチをすべて食べた**

語り手は「犬」に視点を置き、[4]”[4]’ にかけて「視点の一貫性」を保ちながら、「継起的関係」の事態を語っている。したがって「そして」の使用に関して指導の必要はない。また、母語話者は、「犬がバスケットから飛び出しきた」や「サンドイッチがすべて食べられていた」といったように「ケン（とマリ）」側の視点をとる方策をとる傾向が強かったが、「犬」側の視点をとっても「視点の一貫性」と「継起的関係」が保証されれば適切な「そして」の使用になることに注意を払われたい。

一方、「視点の一貫性」が無視されたまま「継起的関係」の事態が「そして」によって添加された例は 3 例見られた。（SES47 の 2 つ目の「そして」は後で扱う。）

SES47（47, 初級）
（朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。）そして犬があります。それからマリさんとケンさんは地図を見ます。犬はバスケットの中に入れます。それからマリさんとケンさんはピクニックに行きます。そして、犬は食べ物を食べました。食べ物はありません。
SES37（47、初級）
（朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。）ケンさんとマリさんは遠足をしようと思っていました。そして、二人で遠足の地図を見ながら、犬は食べ物をバスケットの中に食事をしてしまいました。二人で遠足を山にしました。飯の時に全部の食べ物をだれが食べました。
では、犬はあそこにはして（走って）いました。さいご、二人で悲しくて、何も食べませんでした。
SES01（52, 初級）
（朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。）マリさんとケンさんは地図を見ると、犬はバスケットに入りました。二人は田舎に散歩しました。いい天気でした。ちょっと時間のあとで、犬はバスケットで出ました。マリさんとケンさん、びくり（びっくり）しました。そして、食べ物はよくなかったです。犬は全部の食べ物を食べてしまいました。残念ですね。マリさんとケンさんは寂しいの（過剰使用）気持ちになりました。

前の例と同様に短文による語りで、細かく事態を繋いでいるのだが、この三例では「継起的関係」の事態を繋ぐ時に、「視点の一貫性」を無視してしまっている。

SES 47 は、次の（30）のように単純化したモデルで表示できる。ただし「犬があります」は「犬がそれを見た」と解釈し直している。すぐに気づくように [0][1] にかけて「視点の一貫性」が無視されている。

（30）SES47 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
[0] サンドイッチを作った；	
~~[1] サンドイッチをバスケットに入れた~~	**[1]’ そして、遠くでその様子を見た**
[2] 地図を見た	**[2]’ バスケットの中に入った**
後略	

「そして」を削除して、「朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。犬はそれを見ました／見ていました。」にすると許容度が上がることからも、「継起的関係」の事態を繋ぐ時に「そして」を使うと「視点の一貫性」が不可欠であることがわかる[11)]。

SES37 については（31）の単純化モデルを見るとわかるように、[0][2]’ にかけて「視点の一貫性」が無視されている。「そして」を削除し、「ながら」を含めたいくつかを修正するだけで「ケンさんとマリさんは遠足をしようと思っていました。二人が地図を見ている間に、犬は食べ物をバスケットの中に入ってしまいました」のように、かなり自然になる。

（31）SES37 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
[0] サンドイッチを作った；	
~~[1] サンドイッチをバスケットに入れた~~	~~[1]’ 遠くでその様子を見た~~
[2] 地図を見た	**[2]’ そして、バスケットの中に入った**
後略	

SES01 は（32）の単純化モデルで表示される。ただし「食べ物はよくなかったです」はその後に続く「犬は全部の食べ物を食べてしまいました」ことの評価だと考え、事態「犬がサンドイッチをすべて食べた」が包含しているとした。ここは [4][5]’ にかけて「視点の一貫性」が無視されている。

（32）SES01 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[4] バスケットを開けた、**驚いた**	**[4]’ バスケットから飛び出した**
[5] がっかりした	**[5]’ そして、サンドイッチをすべて食べた**

「そして」を削除して、「二人はびっくりしました。食べ物は良くなかったです。犬は全部の食べ物を食べてしましました。」とすれば、「そして」の制約がない分、許容度が上がる。あるいは、[5] で「そして」を添加することによって、[4][5] にかけての語りの「視点の一貫性」を保証するという手もある。例えば、「犬がバスケットから飛び出したので、二人は驚きました。そして、サンドイッチはすべて食べられていましたので、がっかりしました。」あるいは、「二人は驚きました。犬がバスケットから飛び出したからです。そして、二人はがっかりしました。サンドイッチはすべて食べられていたからです。」のようにすると自然な流れになる。

次に、「場面転換」を表す「そして」の適否に関わる例を見てみる。自然な「場面転換」が起こっているのは、上掲の SES47 の二つ目の「そして」、SES17、SES49 の 3 例である。

SES47 の二つ目の「そして」を単純化モデルで（33）に表示すると、[4]’[5]’ にかけて語りの「視点の一貫性」が確保されていることから、これらが場面解釈を受け、[3][4]’ にかけて場面転換が生じたと認識することができる。結果、適切な使用である。

（33）SES47 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[3] ピクニックに出かけた	
~~[4] バスケットを開けた、驚いた~~	**[4]’ そして、バスケットから飛び出した**
~~[5] がっかりした~~	**[5]’ サンドイッチをすべて食べた**

他の適切な使用の 2 例は次の通りである。

SES17（56, 中級）
（朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。）ケンさんとマリさんは家にいます。ピクニックを行きたいですから、ケンさんとマリさんはサンドイッチを作っています。犬はサンドイッチをみます。後で、ケンさんとマリさんは地図を見ながら、犬はバスケットを開けます。犬はサンドイッチとりんごを食べます。そして、ケンさんとマリさんは庭へ行きます。バスケト（バスケット）を持っています。後で、ケンさんとマリさんはバスケットを開けます。犬は全部の食べ物が食べました！ケントマリはバスケットの中を見ます。食べ物はいません。二人の人はとてもかなしいです。

SES49（61, 中級）
（朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。）まりさんはパンを切っています。けんさんはたべものをじゅんびしています。あとで、けんさんとまりさんは地図をみながら、犬はピクニックのはこの中ではいります。ケンさんとマリさんは庭をはるいて（歩いて）から、すわります。そして、犬はピクニックのはこを出ます。犬は全部食べ物を食べてしまいました！

SES17 と SES49 は、それぞれ（34）（35）のような単純化モデルで示すことができる。

（34）SES17 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[2] 地図を見た	**[2]’ バスケットの中に入った**
[3] そして、**ピクニックに出かけた**	–
[4] バスケットを開けた、驚いた	~~[4]’ バスケットから飛び出した~~
[5] がっかりした	**[5]’ サンドイッチをすべて食べた**

（35）SES 49 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[3] ピクニックに出かけた	–
~~[4] バスケットを開けた、驚いた~~	**[4]’ そして、バスケットから飛び出した**
~~[5] がっかりした~~	**[5]’ サンドイッチをすべて食べた**

SES17 の方は、「そして」で添加された [3] の後、[5]’ のように「犬」の方に一時的に視点がぶれることがあるが、基本的には [3][4][5] にかけて語りの「視点の一貫性」が見られ、自然な流れが確保されている。また、SES 49 の方も、「そして」で添加された [4]’ の後、[4]’[5]’ にかけて語りの「視点の一貫性」が確保され、自然な流れである。

指導改善が必要な「場面転換」の例は、次の SES20 と SES34 の 2 例である。

SES20（56, 中級）

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）**まりさんはパンを切って、けんさんはサンドイッチを作りました。犬は全部見ました。**マリさんはけんさんと地図を見ながら、**いぬがバスケットの中に入りました。**そひて（そして）、**二人で散歩をしました。**ご飯のときに、けんさんはバスケットを開けてみましたから、**犬をバスケットの中に出ました。犬のお腹は大きい過ぎました（大きすぎました）。犬は食べ物をぜんぶ食べました。**

SES34（52, 初級）

（朝、**ケンとマリはサンドイッチを作りました。**）**マリとけんは草に行く予定でした。**だから、**地図をさがしました。**地図を見ながら、**犬はバスケットに入れました。マリとケンは**犬がバズケット（バスケット）に入れるを**分かりませんでした。**そして、**草に行きました。**ケンはばすけっとを開けると**犬が外に行った。いぬは全部の食べ物を食べました。**

SES20 と SES34 は、それぞれ（36）（37）のような単純化モデルで示すことができる。

（36）SES20 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[2] 地図を見た	**[2]’ バスケットの中に入った**
[3] そして、ピクニックに出かけた	–
[4] バスケットを開けた、驚いた	**[4]’ バスケットから飛び出した**
[5] がっかりした	**[5]’ サンドイッチをすべて食べた**

（37）SES34 の単純化モデル

ケン（とマリ）	犬
前略	
[2] 地図を見た	**[2]’ バスケットの中に入った**
[3] そして、ピクニックに出かけた	–
[4] バスケットを開けた、驚いた	**[4]’ バスケットから飛び出した**
[5] がっかりした	**[5]’ サンドイッチをすべて食べた**

これらはいずれも「そして」で添加された [3] に続く視点が「犬」側に移ってしまっている。すなわち [3][4]’[5]’ にかけて「視点の一貫性」が無視されていることが原因で不自然な語りとなっている。[3][4][5] にかけて「視点の一貫性」を保証すると、[3][4][4]’[5][5]’ にかけて一まとまりの場面解釈がなされ、[3] で「場面転換」の解釈がなされる。指導案としては、SES17 や JJJ03 を参考にされたい。

以上、本節では日本語母語話者の「そして」の使用規範をもとにすると、スペイン語を母語とする日本語学習者の使用の適否を適切に判断でき、かつ、その指導改善にも活かせることを確認した。

7. 終わりに

本稿の後半では、日本語母語話者の語りでの「そして」の使用を分析することを通して、語り手の「視点の一貫性」と事態の「継起的関係」によって添加される「そして」と、語り手の「視点の一貫性」によって一つの場面が構成され、場面解釈が生じるという、「場面転換」を表す「そして」の二つの機能を明らかにした。そして母語話者の使用規範が学習者の指導改善にも効果的であることを確認した。

この二つの機能は、日本語の一般的特徴である「視点の一貫性」と相まって生成される、つまり談話での機能であると考えると、「そして」そのものには（38）の表の真ん中の添加機能が備わっていると考えることができる。

（38）「そして」の添加機能

日本語の一般的特徴	**「そして」添加機能**	「そして」の談話での機能
視点の一貫性	**継起的な添加**	継起的関係の「そして」
視点の一貫性による場面構成	**継起的な場面の添加**	場面転換の「そして」

本稿では並列的関係の「そして」については深く分析していない。それについて詳しくは別稿に委ねたいが、「そして」に「並列的な添加」機能があるとするだけでよいような気もする。

そう考えると、「そして」の働き自体は単純に「添加機能」を持つだけで、日本語の一般的特徴として「視点の一貫性」が必要とされるため、日本語学習者、特に初級学習者にとっては使用が難しいだろうと考えられる。このことから、日本語教育での導入は日本語の談話文法の中での導入が不可欠である。

本稿の前半では、スペイン語の接続詞 ‘y’ の用法を整理した。‘y’ による添加を次に再掲する。

（11）スペイン語の ‘y’ の用法の分類（Ⅱ）

	添加元	添加	関係性	「そして」
a.	語	語	並列的	可
b.	句や節	句や節	並列的	可
			継起的／因果的	可／否
c.	相手の発言	自らの発言	対称的	否
			非対称的	否
d.	自らの発言	態度（強調）	補足的	否
		説明	補足的	否
e.	相手の発言	説明要求	補足的	否
		発話意図要求	補足的	否

繰り返しになるが、日本語の「そして」の使用は、前提として「視点の一貫性」が必要であるために、(c) のように相手の発言に自らの発言を添加する、つまり別の視点を添加することは許されない。また、継起的（時として因果的）な添加や並列的な添加は可能であるが、補足的な添加は許容されない。このことにより、(d) (e) のような使用はあり得ない。したがって、スペイン語の ‘y’ と日本語の「そして」が共に使える状況は (a) (b) に限られるのである。

最後に、「グループ解釈」について言い添えておきたい。次の例のように、別の主体の事態を「そして」で添加していくことは可能である。

（39）グループ解釈

太郎が来ました。（そして）次郎が来ました。（そして）最後に三郎が来ました。（そして）やっとみんなが揃いました。

しかしながら、この場合、語り手は別々の視点をとっているのではなく、「太郎、次郎、三郎」を一つのグループとしてみなし、「視点の一貫性」は保持されているとみなされるのである。

参考文献

石黒圭（2000）「「そして」を初級で導入すべきか」『言語文化』37: 7-38.
石黒圭・阿保きみ枝・佐川祥予・中村紗弥子・劉洋（2009）「接続表現のジャンル別出現頻度について」『一橋大学留学生センター紀要』12: 73-85.
市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版
市川保子編（2010）『日本語誤用辞典 外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法 と指導のポイント』スリーエーネットワーク
上田博人（2011）『スペイン語文法ハンドブック』研究社
久野暲（1978）『談話の文法』大修館書店
阪上彩子（2014）「話し言葉における「そして」の指導法：話し言葉 コーパスと初級教科書の分析を通して」『神戸大学留学生センター紀要』20: 61-74.
佐久間まゆみ（1990）「接続表現（1）」寺村秀夫他『ケーススタディ日本語の文章・談話』桜楓社 : pp. 12-23.
迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子（2016）「多言語母語の日本語学習者横断コーパス International Corpus of Japanese as a Second Language」『国語研プロジェクトレビュー』6-3, pp. 93－110.
スリーエーネットワーク（1999）『みんなの日本語初級 I　翻訳・文法解説スペイン語版』
中田一志（2020）「「のだ」文の類型：意味関係と統語的環境から」『 日本語・日本文化』47: 1-26.
日本語記述文法研究会編（2008）『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』くろしお出版
浜田麻里（1995）「ソシテとソレデとソレカラ―添加の接続詞―」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』くろしお出版 : 575-583.
福嶌教隆（2012）『気持ちが伝わる！スペイン語リアルフレーズ BOOK』（Frases Vivas del Español Actual.）研究社
宮城昇・山田善郎他編（2000）『和西辞典』（改訂版）白水社
Camacho, José. 1999. La coordinación. Gramática descriptiva de la lengua española. coord. por Violeta Demonte, Ignacio Bosque, Vol. 2, (Las construcciones sintácticas fundamentales. Relaciones temporales, aspectuales y modales), págs. 2635-2694.
Jiménez Juliá, Tomás. 1995. La coordinación en español: aspectos teóricos y descriptivos. Universidad de Santiago de Compostela.
Real Academia Español. 2022. El diccionario de la lengua española.

付記：本研究は 以下の JSPS 科研費の助成を受けたものです。JP22K00598（「ノダと方言におけるノダ相当形式の対照研究」研究代表者：野田春美）および JP22K00598（「推論過

程の言語化における地域語のダイナミクスに関する研究 : 九州方言を中心に」研究代表者 : 有田節子）

謝辞：本稿はスペインでの研究の機会を日本語日本文化センターよりいただいた折に招聘してくださった Santiago de Compostela 大学の Tomás Jiménez Juliá 教授と毎週定期的に行った Charla の中での一つの話題をまとめたものです。記して感謝申し上げます。もちろん、本稿における誤りは全て筆者の責に帰するものです。

キーワード：接続詞「そして」、スペイン語の ‘y’、談話文法、日本語教育

〈註〉

1）スペイン語の等位接続詞については Camacho（1999）、Jiménez Juliá（1995）で詳しく説明されている。

2）[ ] 内の数字は『気持ちが伝わる！スペイン語リアルフレーズ BOOK』の文例番号である。

3）さらにこのタイプは相手が持ち出した出来事の結果を要求することにつながる。そのため、日本語訳にあるように結果用法の「のだ」が用いられる（中田 2020）。

4）市川（1978）では、接続詞を順接型（だから、その結果、など）、逆接型（しかし、ところが、など）、添加型（そして、それから、など）、対比型（というより、一方、あるいは）、転換型（ところで、さて、など）、同列型（すなわち、たとえば、など）、補足型（なぜなら、ただし、など）、連鎖型の 8 類型に分けている。（市川 1978：89-93）

5）日本語記述文法研究会（2009）では、接続表現を論理的展開を表示する接続表現（だから、それなら、なぜなら、しかし、など）、加算的関係を表示する接続表現（そして、つまり、たとえば、など）、対等な関係を表示する接続表現（および、または、など）、話題の展開を表示する接続表現（ところで、一方、要するに、ただし、など）の8類型に分け、加算的関係をさらに添加、累加、換言、例示、卓立、代替に下位区分している。「そして、それで、それと、あと」が「添加」にあたるとしている。（日本語記述文法研究会 2009：58）

6）12 言語の異なる母語を持つ海外の日本語学習者、および国内の教室環境・自然環境の日本語学習者の発話データと作文データを横断的に収集し、収録したコーパスである。特徴的な点としては、国内外の学習者の発話データと作文データを保持していること、

調査課題のバリエーションが豊富であること、学習者の詳細な背景情報を収集していること、日本語能力の客観的なテストを行っていること、日本語母語話者の比較データがあることが挙げられる。

7）Suvanakoot（2021）では同じ絵を用いた発話データであるストーリーテリングでは、タイ語母語の日本語学習者は、50 人中 25 人が「そして」を使用し、使用総数が 46 回であり、過剰使用が見られることを観察している。ちなみに同じ絵についてのストーリーテリングでは、日本語母語話者 50 名中 11 人が「そして」を使用し、使用総数は 13 回であったとのこと、日本語母語話者に限ると、ストーリーテリングとストーリーライティングでの使用回数についてはそれほど差異がないことがわかる。

8）参考に調査に使用したスペイン語訳と調査結果を載せておく。下線部が空所補充された接続詞である。

[SES47]Por la mañana, Mari y Ken prepararon sándwiches. Luego el perro los observa allí. Luego ellos miran el mapa. El perro se mete en la cesta. Después, ellos se van de picnic. Y entonces el perro se va. El perro se ha comido comida. Ya no hay comida.

[SES37]Por la mañana, Mari y Ken prepararon sándwiches. Ellos querían ir de excursión. Y mientras miraban el mapa, el perro se comió la comida de la cesta. Hicieron un picnic en las montañas. Toda la comida se la comió alguien El perro estaba corriendo por allí. Al final, estaban tan tristes que no comieron nada.

[SES34] Por la mañana, Mari y Ken prepararon sándwiches. Ellos estaban planeando ir al campo. Así que buscaron un mapa. Mientras miraban el mapa, el perro se metió en la cesta. Ellos no se dieron cuenta de que el perro había entrado en la cesta. Luego se fueron al campo. Ken abrió la cesta y el perro salió al exterior. El perro se había comido toda la comida.

[SES20] Por la mañana, Mari y Ken prepararon sándwiches. Ellos hicieron sándwiches. El perro lo miraba todo. Mientras ellos miraban el mapa, el perro se metió en la cesta. Luego dieron un paseo juntos. Cuando llegó la hora de comer, Ken abrió la cesta y dejó que el perro saliera de ella. La barriga del perro era demasiado grande. El perro se había comido toda la comida.

[SES17] Por la mañana, Mari y Ken prepararon sándwiches. Ellos están en casa, preparando sándwiches porque quieren ir de picnic. El perro mira los bocadillos. El perro abre la cesta mientras Ken y Mari miran el mapa. El perro se come el sándwich y una manzana. Luego/ Entonces ellos llevan la cesta al jardín. Más tarde, abren la cesta. ¡El perro se ha comido toda la comida! Ellos miran dentro de la cesta. Y no hay comida. Las dos personas están muy tristes.

[SES15] Por la mañana, Mari y Ken prepararon sándwiches. Por la mañana, Ken y Mari querían ir a comer al parque. Juntos, hicieron la comida. Ken preguntó: "Mari, ¿dónde está el parque?" "El mapa está en el escritorio," respondió Mari. Mientras miraba el mapa, el perro vio la comida y se metió en la cesta. En el parque, Ken dijo: "Ah---. Esta cesta es muy pesada." Dijo Mari: "Hice un montón de comida. Bueno, vamos a descansar aquí." La cesta empezó a moverse. Y

entonces/Entonces el perro salió enseguida. Ken se sorprendió: "Ahhh. ¡Un perro! Se comió la comida. Eso es una locura…”

[SES49] Por la mañana, Mari y Ken prepararon sándwiches. Mari está cortando el pan. Ken está preparando la comida. Después, miran el mapa y el perro entra en la cesta del picnic. Ellos pasean por el jardín y luego se sientan. Y entonces el perro sale de la cesta del picnic. ¡Se ha comido toda la comida!

[SES01] Por la mañana, Mari y Ken prepararon sándwiches. Mari y Ken miraron el mapa y el perro entró en la cesta. Dieron un paseo por el campo. Era un buen día. Al poco tiempo, el perro salió de la cesta. Ellos se sorprendieron. Y entonces la comida ya no estaba allí. El perro se había comido toda la comida. Lástima. Ellos se sintieron tristes.

9）石黒（2000）の「決定的な事態」や Suvanakoot（2021）の「意外な展開」や「結末」の解釈はここで議論した一連の解釈から説明できる。

10）カッコ内は、筑波日本語テストの SPOT の得点、および能力判定を表している。

11）ただし、最後に見るような「グループ解釈」であれば原文でも可能である。例えば、童話「桃太郎」で「犬は鬼に噛み付きました。そして、猿は鬼をひっかきました。そして、キジはくちばしで鬼の目をつつきました。そして、桃太郎は刀をふり回しました。」のような語りはよく見られる。この場合、「犬、猿、雉、桃太郎」が一つのグループとしての解釈であれば、語り手の視点は一貫していると考えられる。このように「ケン、マリ、犬」をグループと解釈すれば原文で可能となる。しかしながら、この物語では迷惑の加害者と被害者を分ける傾向が強いので、普通「グループ解釈」は取られないだろう。

On ‘soshite’ and ‘y’

NAKATA Hitoshi

The aims of this paper are as follows. We will classify and reorganise the usage of the Spanish conjunction ‘y’ in order to contrast with the usage of the Japanese conjunction 'soshite'. Next, we will clarify the norms of use of 'soshite' used by native Japanese speakers. Then, the use of 'soshite' by Japanese language learners of native Spanish speakers will be analysed, and suggestions for Japanese language teaching will be made. Finally, we will explain why the use of 'soshite' is difficult for Japanese language learners and suggest how it can be introduced in Japanese language teaching. In addition, we will argue the conditions under which the Japanese 'soshite' corresponds or does not correspond to the Spanish ‘y’.